

木材共販市況

令和6年度の林業センターでの第1四半期の入荷状況は、4月1257㎡、5月1456㎡、6月1622㎡でした。第2四半期は7月1901㎡、8月1820㎡、9月1874㎡と上半期全般としては平年を大きく上回る取扱量となりました。今年の伐採された原木に加えて、昨年度末にセンターへ入材しきれなかった原木の入荷があり昨年同時期と比べ取扱量が増加しました。しかしながら建築用材に比べ低質材が多く、建築用材向けの仕分けには苦慮しており、さらに建築業界においても物価高騰等のあおりを受けて引き合いが弱い状況です。

相場は昨年度末よりスギ、ヒノキともに値を下げている状況が続いており、合板用材が下押し傾向を止めている状況です。

その一方で、合板やチップ材、土木資材等の販売は順調に推移していますが、ここへきて合板は下げ相場が続き、住宅着工の低迷など需要の低下もあり合板の販売への影響が懸念されます。

これから素材生産が活発に行われる時期でもあります。仕分けから販売までの作業をスムーズに行い高値販売を目指して少しでも山元へ還元できるように努力してまいりますので、皆様からの出荷をよろしく願います。また、今年度の共販の取扱最終荷受け日は令和7年2月21日までとなりますので併せてよろしく願います。

県森連林業センター 木材市況

令和6年10月17日

(単位:円)

樹種	長さ m	末口径 cm	価格 1㎡当り			気配	摘要	
			高値	中値	安値			
す	3.0	14	13,000	10,000	9,000	○	柱目3.5寸	
		16~18	13,000	11,000	9,000	○	// 4寸	
		20~	16,000	14,000	9,000	○	中目	
	4.0	11~13	12,000	10,000	10,000	○	母屋取り	
		14	14,000	11,000	10,000	○	桁目3.5寸	
		16~18	14,000	12,000	10,000	△	// 4寸	
		20~22	14,000	13,000	10,000	○	中目	
		24~28	17,000	15,000	10,000	○	//	
		30~	18,000	15,000	10,000	○	//	
	6.0	16~18					元玉選木	
20~22						通し柱4寸		
ひ	2.0	26~	25,000	10,000	8,000	○	元玉	
		3.0	14	17,000	15,000	9,000	○	柱目3.5寸
			16~18	23,000	22,000	19,000	△	// 4寸
			20~22	21,000	18,000	15,000	△	中目
			24~28	22,000	18,000	16,000	○	//
	30~	24,000	22,000	18,000	○	元玉選木		
	4.0	11~13	15,000	12,000	10,000	○	母屋取り	
		14	18,000	16,000	11,000	○	土台目3.5寸	
		16~18	22,000	20,000	17,000	○	// 4寸	
		20~22	20,000	18,000	15,000	○	中目	
24~28		21,000	19,000	17,000	○	//		
6.0	30~	35,000	20,000	19,000	△	//		
	30~	75,000	30,000	20,000	△	元玉選木		
6.0	16~18	34,000	28,000	25,000	○	通し柱4寸		
	20~22	35,000	25,000	23,000	○	// 5寸		

注) 売上総数量 1,666.918㎡

△ 強気配 ○ 保合 ▼ 弱気配

発行所
秦野市菖蒲317番地
神奈川県森林組合連合会
総務指導課
電話 0463-88-6767(代)
ホームページ http://www.kenmoriren.jp/

新任のJ挨拶

神奈川県森林組合連合会 会長 平田 光一



平田会長

前任の小泉会長に代わり5月30日の当会総会において、代表理事会長に選任されました平田と申します。

私は20歳代に「ロッテデール原則」という活字に出会い協同活動について学びました。この原則は、イギリスコッチデール地方の織物工30人が公正先駆者組合なる消費組合を設立し、①加入の自由 ②1票の民主的運営 ③出資金への配当の制限 ④剰余金の利用高に依じた分配の4原則を守り、協同活動に取組んだ事が成功した要因と言われ、その後、北欧諸国を始め日本にもこの動きが広がりました。その結果、現在の森林組

合・農協・漁協・生協など協同組合組織が存在し、その構成は出資者である組合員を中心に希望を叶えるため働く役職員の姿があり、森林組合系統もこの原則が協同活動の基盤である事を再認識しました。

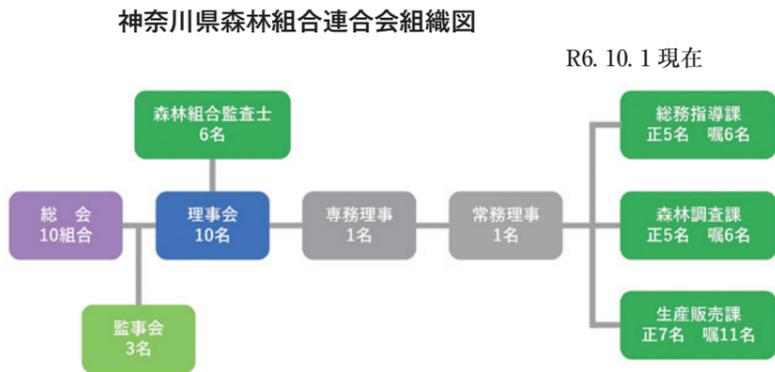
さて、元号が昭和から平成、令和へと時代が移り変わり、森林・林業・木材産業界を巡る情勢は、ウッドショックで賑わった木材価格も一過性で、現在は価格の低迷が続き、担い手不足、再造林率の低位など課題は山積しています。しかしながら、森林の持つ多面的な機能はすべて国民が享受する財産であり、それを後世に引継ぐ事が我々に課せられた使命でもあると考えます。

そこで、当会として水源環境保全・再生施策大綱終了を見据え、県に対し財源確保の要望運動、徴税が始まった森林環境税を財源とした森林環境譲与税事業の情報収集や連携、Jクレジットなど新規事業・代替事業の検討・確保、長期施業受委託契約

地の確保と着実な整備、安定的・効率的木材供給の原木入出荷に関する季節的バラつき解消など、系統組合と共に図つてまいりたいと考えます。

以上、当会の目的に鑑み、代表理事会長として職務を全うすべく尽力する所存ですので、皆様のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

神奈川県 森林組合連合会の組織



役員紹介

(令和6年5月30日付)

- 就任**
- 代表理事会長 平田 光一
 - 副会長理事 熊澤 嘉孝
 - 代表理事専務 小林 学
 - 常務理事 小川 俊次
 - 大館 秀孝
 - 武藤 勝明
 - 杉山 千秋
 - 下嶋 美範
 - 高杉 光男(新)
 - 山崎 和彦(新)
 - 鶴田 洋久(新)
 - 山田 正文(新)
 - 井田 義人
- 退任**
- 代表理事会長 小泉 清隆
 - 理事 木藤 一郎

単位森林組合 組合長の変更

- 南足柄市森林組合 代表理事組合長 高橋 宏通

県森連の将来のあり方検討プロジェクトチーム始動

1 趣旨

県森連は、協同組合としての機能のみならず、公共的性格を持つ中間的団体であり、かながわの森林づくりを支える中核組織として、県産木材の流通機能はもとより、水源環境保全・再生施策を担うなど、森林の保全・再生に大きく貢献してきました。

一方で、県森連の最近の経営状況を見ると、収益は、水源施策、特に確保事業に大きく依存する体質が顕著となっております。

今後、水源施策大綱期間の終了に伴い、大きな収益源である長期受委託の確保事業が終了し、その後の代替事業がない場合は、大幅な赤字体質に陥ることが推察されることから、県森連では、大綱終了後を見据えた将来の方向性について、プロジェクトチームによる検討を進めてきました。

2 検討の経過

重要と思われる項目に絞って、令和5年9月から、会内に3つの検討プロジェクトチームを設置し、中堅・若手職員を中心に検討を進めてきました。

PT①「代替事業・新規事業の確保」検討チーム

・確保事業に代わる新規事業について、施策の動向等も踏まえつつ、新たな分野の事業や、主伐・植替えの対応等についての検討

PT②「原木流通の効率化と今後のあり方」検討チーム

・原木流通の現状や今後の動向分析、近隣県の状況を踏まえ、効率化の手法や機械化の検討、課題等を整理

PT③「新たな枠組みであるJークレジットの実現化」検討チーム

・制度や事例の収集、具体的試算を踏まえ、Jークレジットの実施に向けた仕組みや課題、今後の展開方法等について検討

4 P Tリーダーより一言



森林組合との情報交換会

PT①「代替事業・新規事業の確保」検討チーム

森林調査課 調査担当係長 正野光範
現在、主に脱炭素社会の実現や花粉発生源対策のための主伐・植替え(若返り)の推進に向けた検討をしています。

具体的には、県森連が計画立案、事業対象地抽出、立木評価等、実施のとりまとめを担い、森林組合や意欲と能力のある経営体が森林所有者との合意を基に、主伐・植替え

を実施することを構想しています。

今年度は、神奈川県内の地理や担手の状況等に適合した事業候補地の選定基準や、事業量の検討を行う予定です。

主伐・再造林は、担い手の確保や、新技術の導入による省力化、木材流通の効率化、苗木の安定確保といった課題があります。ご支援の程よろしくお願いたします。



PT②「原木流通の効率化と今後のあり方」検討チーム

総務指導課 指導担当係長 石鍋 聡
原木流通の効率化のために、自動選別機をはじめとする機械の導入、原木流通の合理化について検討しています。

NEW



伊勢原市森林組合

石塚 幸絵

【年齢】43歳【役職名】主事補
【採用日】令和6年8月1日

【趣味】湘南ベルマーレの応援!!
伊勢原市大山で生まれ育った私は、大好きな地元で携わり貢献できる仕事をしたい!!という思いがありました。

この度ご縁があり伊勢原市森林組合に出会え、八月より正式採用頂き大変嬉しいです。森林組合の仕事は初めてづくしで「知らなかった、そうだったのか」の連続です。深く多岐に渡る内容に皆様には日々支えられ、学ばせていただいております。その恩を少しでも早く仕事を覚え返せる様、これまで経験した接客や事務の知識を活かしながら努め邁進していきたいです。よろしくお願致します。

FACE



南足柄市森林組合

上村 真之

【年齢】49歳【役職等】技士
【採用日】令和6年4月1日

【趣味】スポーツ観戦・散歩
4月より南足柄市森林組合に入組しました上村真之です。昨年度まで神奈川県森連の作業班で、森林整備の基礎を学ばせて頂いておりますが、縁あってこちらにお世話になることとなりました。

以前は林業とは全く関係が無い小売業で、20年以上に渡りスポーツ用品の販売という仕事をしておりましたが、コロナ禍において今後の人生を考える機会があり、第一次産業に深く興味を持ちました。林業が人間の生活や環境問題など、多岐にわたる重要な役割を担っている事を知り、従事することを決めました。

現在は森林整備を中心に日々勉強の毎日ですが、良い山造りに貢献出来るようにしていきたいと思っています。

「緑の雇用」研修を修了して



愛川町森林組合

金丸 伸一

緑の雇用研修では三年間を通して森林整備、森林調査、素材生産、機材メンテナンスなど基礎から応用まで多岐に渡る林業の知識、技術と資格を身に付けました。

特に集合研修では他林業事業者の実際の現場を訪れ、第一線で働いている講師から業務に活かせる実践的な伐倒、集材、造材方法を学びました。また林材業安全技能師範が講師の研修では災害事例や危険予知トレーニング、安全対策に関する多くの資料などを通して安全に作業する重要性をご教授頂きました。

同期に恵まれ互いに技術を高め合う機会があり多くの刺激を受けました。今後は「緑の雇用」で培った知識、技術と資格を活かして林業の現場に貢献して行きたいと思っています。

フォレストリーダー研修を修了して



小田原市森林組合

廣川 喜大

日頃この仕事で様々な経験を積み、知識を得る中で物足りなさを感じ、次の段階へ進みたいと思い、今回の研修に臨みました。

この研修では林業基礎に関わる事は勿論、仕事を円滑に進める為のコミュニケーションや林業の最先端技術まで幅広い学びを得る事が出来ました。

また、共に受講した同じ志の方々との意見交換では、同じ作業でも地域差や作業員による考え方の違いなど、新しい視点から林業を見つめる事に繋がりが充実した研修となりました。

今回学んだ事は今後の仕事や組合のために生かしていきたいと思っております。また、今後は自分が先輩方から教わった知識や経験を自分自身に生かすだけでなく、後輩に教えるという新しい経験に繋がっていききたいと思っております。

令和7年度 国・県への施策要望

県森連では森林・林業関係の5団体で協議した令和7年度施策要望をとりまとめ、7月に県や政党（自民党、公明党等の県会議員）に対して要望活動をしました。

要望の概要は次のとおりです。

- 1 水源環境保全・再生施策大綱後の支援
- 2 水源環境保全・再生施策大綱期間終了後の森林整備への財源確保及び支援策の創出
- 3 木材の搬出支援の継続
- 4 脱炭素社会の実現や花粉発生源対策のための主伐・植替え（若返り）の推進
- 5 伐採・植栽・保育まで一貫した新たな補助制度の創設
- 6 花粉対策苗木の安定供給体制を確保するため、苗木の委託生産、全数買取等の制度の創設
- 7 挿し木苗を含めた無花粉苗木の増産体制の早期構築と他県への普及促進
- 8 木材加工流通体制の強化による木材利用の促進
- 9 県産木材による製材品の加工流通体制の整備への支援
- 10 ①全国育樹祭の誘致
- 11 ②シカ被害対策の推進・強化
- 12 ③ナラ枯れ対策における危険木の伐採整理に対する支援
- 13 その他

コンプライアンス研修会

令和6年9月20日に厚木市の神奈川県工科大学ITエクステンションセンターにおいて「令和6年度森林組合コンプライアンス研修会」を開催しました。

研修講師には全国森林組合連合会組織部 監査企画担当部長の岸田慎介氏をお招きし、協同組合で働く心構えを醸成し、コンプライアンス態勢の向上を図るためご講義をいただきました。

今年度の研修テーマは「森林組合役員に求められるコンプライアンス」とし、組合職員だけではなく多数の役員の方にもご参加をいただき、県下10組合と連合会の役員員を合わせ40名が研修を受講しました。

- I 協同組合・森林組合の概要
 - II 森林組合役員に求められるコンプライアンス（不適正事案事例）
 - III 諸法令改正と業務上の留意事項
- 3つのテーマに沿って講義をいただき、I 協同組合・森林組合の概要では、協同組合（森林組合）の役割



森林組合との情報交換会

や位置づけ、また理事と監事の権限や責任など、II 森林組合役員に求められるコンプライアンスでは、コンプライアンスの重要性、自己評価シートを活用した監査や内部監査の実施についての説明を受けました。そして最後III 諸法令改正と業務上の留意事項では、11月から施行されるフリーランス法などの、文章では理解しにくい法令についてポイントを押さえた解説をいただきました。今回の研修をこれからの組合運営に活かしていただければ幸いです。

森林組合探訪

秦野市森林組合

今回の森林組合探訪は、新規事業の開拓に積極的に取り組んでおられる秦野市森林組合を訪問し、大津専務・岡崎総務課長・長谷川技師に新規事業の経過と展望、今後のビジョン等についてお話を伺いました。

苗木初出荷

秦野市森林組合では平均して年間1万本の苗木を植栽しています。一方、令和元年に秦野市内の苗木生産者さんが高齢のため引退しようかとおっしゃられるなど、苗木の安定的確保に不安がありました。そこで、苗木の安定的確保並びに造林費用の縮減を目指し育苗事業に着手しました。

三重に視察研修に行き生産設備と技術を学んだ後、最初は山林種苗協同組合からいただいた約10グラムの種をプランターで育てるところからスタートしました。最初に蒔いた種の発芽率が良く自信を持つことができたことから、令和3年に地元空いている畑を借りて生産することにしました。



森林組合が農地を借りて苗木を生産するため営農許可を取得する必要があり、農業委員会の審議等で6ヶ月を有したことも、もともと田んぼだったため、水はけが悪く立ち枯れ病が発生し、土にココピートを混ぜるなど土づくりが工夫を要したことなど、苦労はありましたが、今年400本の苗木を初出荷することができました。

来年度は森林組合で種から生産した苗木を10,000本程度出荷できるのではないかと期待しているところです。現在の苗畑は5〜6年で4万本まで増産できるので、自家消費に留まらず外部に出荷できればと考えています。

秦野市植樹祭・ウッドチップ舗装等

10年ほど前に秦野市内の森林整備と併せて東屋周辺のウッドチップ舗装を提案する機会がありました。そのときの仕上がりが美しかったこと、自然素材でクッション性があること等からウッドチップ舗装を広めていきたいと考えるようになりました。

森林組合の事務所脇に施工し、市や県の職員をはじめ事務所に来られた方に見ていただいたり、岐阜への視察に同行していただく等の働きかけを行った結果、震生湖、弘法山公園、菜の花展望台、県立戸川公園等公園施設を始め、市内外の個人宅からご注文をいただけるようになります。



今後の課題とビジョン

大きな収益源である水源施策の区切りを見据え新たな収入源を確保し、森林整備を継続するため、新規事業の開拓は継続し、多角化していく方針です。



（写真 右から）岡崎総務課長・大津専務・長谷川技師